



そんな子、知らないからね

こんなことを言われたら、子どもはさびしい思いをします。見放されたと感じてしまいます。そうすると、親の気を引こうと、ますます言うことを聞かなくなるでしょう。わざと乱暴な行動をするようになる子もいます。



ほらね、またやった

このあとには、「だから、いつも言ってるでしょ。お母さんの言うこと、ちつとも身を入れて聞いているじゃないからよ」などのイヤミが、いつまでも続きます。子どもは「うるさいな」と思っても、そんなことを言ったらますます叱られますから、お説教が終わるまで、黙っているだけです。



そんな言い方しないでよ。たまたま失敗しただけじゃないか。わかってるのなら、なんで早く言ってくれないの……。

このことばの奥には、「いつもあなたはそうなのよね」「いくら言ってもムダなのかしら？」「もう何も言わないことにしよう」というような、子どもに對

するあきらめとか無関心な態度のあらわれが含まれています。関心をもつてもらえないというのは子どもにとって、きつく叱られるより、何よりもつらいことなのです。

人は、誰にも認められず、関心ももたれないでいると、希望も意欲も失ってしまいます。無関心は、人の心を萎縮させ、自信や自尊心、希望を打ち砕いてしまいます。